

氏名（本籍）	丸山優樹
学位の種類	博 士（ 農 学 ）
学位記番号	博 甲 第 9841 号
学位授与年月日	令和 3 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	生命環境科学研究科
学位論文題目	モーリタニアにおけるコメ需要に関する実証的研究 —表明選好法によるアプローチ—

主査	筑波大学准教授	博士（農学）	氏家 清和
副査	筑波大学教 授	博士（農学）	納口 るり子
副査	筑波大学教 授	博士（農学）	茂野 隆一
副査	筑波大学准教授	博士（農学）	小林 幹佳
副査	宮崎大学・工学教育研究部 教 授	博士（工学）	入江 光輝

## 論 文 の 要 旨

モーリタニアをはじめとする西アフリカ地域は世界経済の最後のフロンティアと目され、経済成長が著しい。都市への人口集中も急速に進んでおり、食料消費のあり様も大きく変化している。中でも、主食において、伝統的なソルガムなどの雑穀からコメへの消費のシフトが近年加速している。都市部で急増するコメへの需要を賄うために、西アフリカ各国は、輸入に依存した食料政策を推進してきた。しかし、その結果、国際市場の変動に脆弱な食料供給基盤が構築された。実際に2008年の食料危機では、国際的なコメ価格の急騰により、饑餓状態に直面した国々も多く、食料安全保障の問題が経済発展を停滞させる深刻な要因となっている。これらの状況を受け、これらの地域では国産米の生産力強化への取り組みが活発化し、先進国及び国際機関の支援のもと、生産量は増加傾向にある。しかし、支援の多くは国産米の生産性向上のみに焦点を当てたため、現地生産されたコメは必ずしも消費者選好に合致しておらず、依然として消費者は輸入米を好み、国産米の消費拡大には繋がっていない。消費者選好の特色を踏まえた国産米の生産に組み込み、輸入米と同等の市場競争力を確保することで、国際市場の変動に頑強な食料需給体制の構築が喫緊の課題となっている。

第1章において著者は、西アフリカ地域のコメ消費に関する現況と国際市場の特徴を概観し、当該地域でコメの消費量が顕著に増加していること、ならびに国際価格変動によりもたらされる食料供給の不安定性を指摘している。食料安全保障の観点から問題点を提起するとともに、研究対象地としてのモーリタニアの妥当性と本研究の動機と目的を述べている。

第2章において著者は、西アフリカ地域における、コメの消費者選好評価に関わる既往研究を整理した。当該地域の消費者の間で品質へのニーズが強まっていることを指摘している。また、本研究で取り組む、コメの多様な属性に着目した消費者選好研究の重要性を、既往研究で採用されてきた各種手法を比較しながら詳述している。

第3章において著者は、オブジェクトケース・ベストワーストスケーリングによる消費者調査

をもとに、当該地域の主食におけるコメの位置づけ、ならびに消費者の評価に関わるコメ属性の俯瞰的な把握を試みている。その結果、昼食におけるコメ消費が食習慣として強く根付いており、主食として重要であることを明示している。つづいて、著者は、コメ属性にたいする消費者評価を潜在クラスモデルによって分析し、消費者選好の異質性を考察している。分析の結果、モーリタニアの消費者は夾雑物の少なさを表す清潔さや価格を重要視する一方で、アジアの消費者が好むコメの香りは、当該地域の消費者には必ずしも重視されていないことを見出している。

第4章において著者は、コメを対象とした選択実験の結果を離散選択モデルにより分析し、消費者選好に関する知見の深化を試みている。その結果、清潔なコメや米粒の破碎状態が均一なコメが消費者に好まれ、これらの属性を満たした国産米に高い支払意思額が存在していることを指摘している。これらの知見を踏まえ、国産米振興における精米・選別・出荷などのポストハーベスト技術普及の重要性を強調している。

第5章において著者は、近年モーリタニアで関心が高まっている肥満や糖尿病の問題に着目し、健康意識や安全性がコメ消費に及ぼす影響について、プロファイルケース・ベストワーストスケールリングを用いて検討している。コメの健康属性は、原産国や清潔さに次いで重要視されており、コメの購買行動において欠くことのできない要素であることを示唆している。これらの知見を踏まえ、健康意識の観点から、肥満及び糖尿病対策として、食後の血糖値の上昇を緩める効果が報告されている玄米食の促進や高アミロース米品種の生産も国産米の消費拡大の一助となる可能性を指摘している。

第6章において著者は、本研究で得られた知見を総合的に考察し、西アフリカ地域での食料安全保障のための政策インプリケーションを提示している。

## 審 査 の 要 旨

本研究は、近年の経済発展にともない急速に変貌している西アフリカの主食消費のあり様について、モーリタニアを事例とした綿密な消費者調査をもとに論考したものである。選択実験及びBest Worst Scalingなどの表明選好法により、現地消費者のコメに対する選好を詳細に分析し、安全性や健康など食品の信用属性に対する消費者の関心が高まっていることを見出している。さらに、選好評価の結果をもとに同地域で求められる国産米の自給率向上による食料安全保障の可能性について考察を加えている。西アフリカ地域を対象とした研究はあまり多くなく、本論文は貴重な知見を社会に提供している。加えて、様々な選好調査手法を比較し、現地での調査における有効性についても検討を加えており、方法論の観点からの貢献も大きく、本論文の学術的価値は大きいと認められる。

令和3年1月27日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもとに論文の審査及び最終試験を行い、本論文について著者に説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものとして認める。